

ニュースポーツの 魅力を発信！

2019. 12. 15sun

演習・コミュニティアワーII

報告会（岡崎ゼミ）

★中條 慎平

★西野 壱輝

池奥 大和

金澤 慶

中嶋 周平

浜崎 遙輝

南 貴暉

山根 尚将

【活動目的と取組概要】

生きがいを感じ、健やかに生活するためには、健康の維持と増進は欠かせません。岡崎ゼミでは、スポーツを通した住民の健康づくりと地域の活性化を学習することを目的に、赤穂市教育委員会スポーツ推進課と協働して、ニュースポーツを広める活動に取組みました。

1. 赤穂市の現状と課題を理解するために、スポーツクラブ21と意見交換を行う。
2. 見えてきた課題を、「ニュースポーツ」に焦点をあてて整理し、地域活性化に向けた取組み計画を設定する。
3. 「ニュースポーツ」の理解と地域と交流を深めるために、スポーツクラブ21のメンバーと各種のニュースポーツを体験する。
4. 体験を通して確認したニュースポーツの特徴と課題を踏まえ、赤穂発のニュースポーツを開発し、地域への発信と活性化に向けて取り組む。

【一年間の取組状況】

前期の15回は、赤穂市について、特に「スポーツ」の観点から理解することに焦点を置きました。

1. 赤穂市内の「スポーツクラブ21」のメンバーと意見交換を行い、それぞれの地区の実情の理解に努めました。
 - 市内中心部と周辺地区では人口比率が異なる。
 - スポーツクラブの活動状況に温度差がある。
 - 少子化の影響で子どもたちの団い込みが起こり、メンバーが集まらない。
 - 中山間地域では交通が不便であり、移動に課題がある。といった意見が出されました。
2. ニュースポーツの理解を深めるため、スポーツクラブ21のメンバーと次のニュースポーツを体験しました。
 - グランドゴルフ《学内サッカー場》
 - キーンボール、囲碁ボール、室内カーリング《学内第1体育館》
 - ペタンク《学内グランド》
 - ターゲットバードゴルフ《千種川河川敷》
 - アジャタ《有年地区》
 - グランドゴルフ《尾崎地区》

これらの体験を踏まえ、

- ① 地域活性化とつながり構築
- ② 楽しみの共有
- ③ 健康増進



の3点から話し合いを行い、誰でも楽しめる新しいニュースポーツを開発し、社会へ発信していくことを後期の目標にしました。

【課題解決に向けた取組】

意見交換とニュースポーツの体験を通して、次の課題を改善するための話し合いを行いました。

- ① ニュースポーツの活動量に差があるため、年齢層が限定される。
- ② 娯楽性と競技性を同時に充足するのは難しい。
- ③ 競技によっては広いスペースや準備に時間がかかる。
- ④ 競技ごとに用具があり購入費用が必要となる。

これらを克服するために、秋学期は、昨年度の受講生が開発したニュースポーツ「モリゴッタ」を、住民の方と一緒に改良、改善に取組ました。

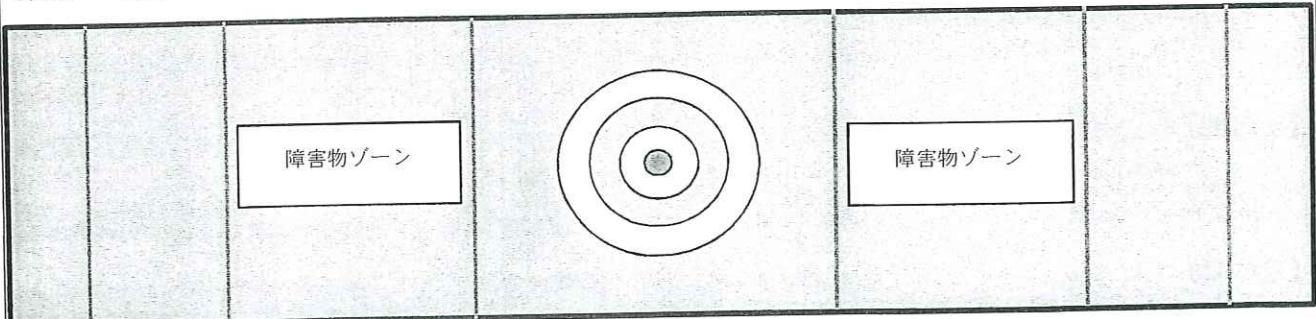
【新ニュースポーツ：ラッキーストライク】

2018年度の演習・コミュニティアワーⅡで開発された「モリゴッタ」をベースに、娯楽性と競技性を同時に高めるため、用具の追加とルールの変更を加えました。

【用具】

1. 囲碁ボールのスティック 2本
2. 囲碁ボールの球（白黒それぞれ9球）
3. スポンジ 3個（競技能力に応じて、上限6個）
4. フィールド (15m×1.8m)

0.5m 2m 4m 2m 4m 2m 0.5m



【競技の概要】

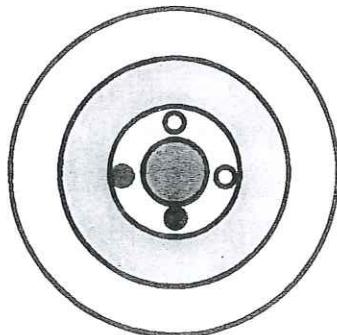
1. 1チーム3人で行う対戦ゲーム。
2. 1人3球が持ち球。
3. 中央の的に近い球の合計点数で勝敗を競う。
4. 3セットを行い、2セット先取したチームの勝利。

【ルール】

- 競技開始前に、相手陣地の『障害物ゾーン』にスポンジを置く。
- スポンジの置き方は自由だが、①連結して並べる、②重ねる、③立てる、のは禁止。連続させる場合は、球が通るだけの間を空ける。
- 赤線の内側から一球ずつ、中央の的に向けて交互に打突する。
- フィールドから球が出たらアウト。相手陣地に球が入ってもアウト。

【勝敗の判定】

- 中心の的にから 5 点、3 点、2 点、1 点。的の中にある自チームの球を合計する。
- 中心点のロッドに当たっても得点は加算されない。
- フィールド上の球は無得点。
- 2 セット先取したチームの勝利。
- 同セットの場合は、延長戦（タイブレーク）を行う。



＜球の置き方＞

【タイブレーク】

2 点得点ゾーンに 2 球おく

- 置き方は自陣から見て、相手側正面に 1 つ、左側に 1 つ。
- タイブレークの持ち玉は一人 2 球。
- 両チームともすべての球を打ち終わり合計点数で競う。
- 勝敗が決するまで行う。

【反則】

- 相手の球に触ったとき
- 一人が 3 球以上打突したとき
- 故意にフィールドをずらしたとき

【その他】

- 競技者のレベルによって、フィールドの長さや、障害物は変更可能。

【まとめ】

少子高齢社会にあって誰もが充実した人生を送るために、今ある社会資源をさらに活用することは有効な手段の一つです。つながりの希薄化が指摘されている現代では、今まで以上に世代を超えたつながりが求められます。そのためには、共通した目的を持ち、共同して作業することはとても有効です。そのきっかけとして、ニュースポーツの「いつでも誰でもどこででも」の精神を活用することで、楽しみながら世代間を超えた交流が可能であることを理解することができました。

今回、ニュースポーツのも良さをさらに引き出すことを目的に、赤穂発の新しいニュースポーツを創造することにより、スポーツの持つ魅力と可能性に気づくことができました。